

父よ、わたしの霊を御手にゆだねます

ルカによる福音書 23：1－49

詩編 22：1－11



司祭 ヨハネ 井田 泉

2025 年 4 月 13 日

復活前主日

聖光教会にて

(ルカによる福音書の受難朗読の後、しばらく沈黙)

ルカ福音書に記された主イエスの三つの言葉を心にとめて、一つずつ思いめぐらし、祈りをささげます。

1 そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ 23:34)

イエスは罪を犯されなかったのに、不当な裁判にかけられ、死罪とされました。

イエスは、「されこうべ」と呼ばれるところに連れてこられ、そこで十字架につけられました。二人の犯罪人が、一人はその右に、一人はその左に、十字架につけられました。

(沈黙)

(祈り)

主イエスよ、あなたは、あなたを告発した者、死に渡した者を憎まず、その罪が赦されるように祈られました。あなたは彼らが滅びるのを願われませんでした。

主よ、赦していただかなくてはならないのはわたしです。わたしたちです。自分が何をしているのか知らずにいて、あなたを苦しめてきたのはわたしたちです。

けれどもあなたがわたしたちの赦しのために祈ってくださるので、わたしたちは希望を持つことができます。あなたから赦しを受けて、わたしたちは新しく生きることができます。

2 するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた。(ルカ 23:43)

一緒に十字架につけられた犯罪人の一人が、苦しい息の中で言いました。

「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」ルカ 23:42

彼は死の淵にあってイエスに望みを託しました。すべての人から忘れられても、イエスが自分を記憶してくださるなら、それで十分でした。

(沈黙)

(祈り)

主イエスよ、わたしを忘れないでください。今も、後の日も、永遠にあなたと一緒におらせてください。わたしたちはそれを願う資格のないものですが、あなたの愛にすがってお願いしま

す。あなたの樂園にわたしたちを迎えてください。

3 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」（ルカ 23:46）

イエスは大声で叫ばれました。ご自分の全部をかけた最後の祈りでした。

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」

イエスはご自身の霊を、ご自分のすべてを、神にゆだねられました。神は、その御手にイエスを抱かれます。そして三日目にイエスを復活させられます。

イエスがご自分を神にゆだねられたとき、実はわたしたちのこともご自分と一緒に神にゆだねてくださったのです。なぜならイエスはわたしたちを招いて、ご自身に結びつけてくださったからです。イエスに引き寄せられたわたしたちは、イエスと一体とされています。

今日の詩編を見ましょう。第 22 編です（祈禱書の詩編）。

1 節

わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられるので

すか Ⅱ どうして遠く離れて助けようとはせず、わたしの叫びを聞こうとされないのですか

これはマタイ福音書とマルコ福音書に記された十字架上のイエスの言葉です。十字架上の苦しみの中で、ご自分のうちにあったこの詩編第 22 編の祈りが、このとき、ご自分の叫びとなって溢れ出たのではないのでしょうか。

10 節

この世に生を受けたときからわたしはあなたのもの Ⅱ 母の胎にいたときから、あなたはわたしの神

「わたしはあなたのもの」「あなたはわたしの神」

絶望的な叫びで始まった詩編第 22 編の祈りは、ここに至ります。神にすがりつく信仰告白に至ります。

「わたしはあなたのもの」「あなたはわたしの神」

この祈りは、十字架のイエスによって、わたしたちに与えられました。わたしたちも言いましょう。イエスとともに祈りましょう。

「わたしはあなたのもの」「あなたはわたしの神」

ここにわたしたちの救いがあります。

(沈黙)

(祈り)

主イエスよ、あなたはご自身を神にゆだねられました。

わたしたちもまたあなたとともに、神に自分をゆだねます。

アーメン